

タケダ・ウェルビーイング・プログラム 2016 成果報告レポート

助成番号 16-2-2

プロジェクト名	長期に医療的ケアの必要な子どもたちと家族の在宅生活を支える人材育成プロジェクト (2)
団体名	認定特定非営利活動法人 NEXTEP
所在地	熊本県
助成額	50万円
設立年	2000年
URL	http://nextep-k.com



(団体について)

認定 NPO 法人 NEXTEP (熊本県合志市) は、「笑顔あふれる地域社会づくり」を目指し、「講演会等を通じた社会課題解決の為にネットワークづくり」「不登校児のサポート」や、「重い障害や難病の子どもたちの在宅生活支援」を事業として展開しています。

「子どもたちが家で、家族と一緒に暮らす」

当たり前と思われる「家族と一緒に暮らすこと」。このことすら難しいと言われる重い障害や医療機器に囲まれた子どもたち。子どもたち自身、そして看護と介護と育児をいきなり突きつけられる両親も含め、私たち NEXTEP は直接的な医療職や福祉職による支援を行う一方、一般企業や地域住民に向け、「長期に医療的ケアの必要な子どもたちが私たちの街にいて、手を差し伸べる人たちを待っています。」と発信し、支援者を増やしていくことにも取り組んでいます。

(助成による活動と成果)

今回の助成プロジェクト (以下：本助成) で取り組むのは、「職種も年齢も問わず、長期に医療的ケアの必要な子どもたちの子育てサポーターを1人でも多く作ること」を目指して、学生のインターン研修や見学を受け入れ、将来的に地域で彼らを支えることのできる若手人材を育成する研修プログラムです。

○研修プログラムの内容

研修の実施場所は、障害児通所支援事業所ボンボン。主な参加対象は、熊本の大学や専門学校に通う学生で、ネクステップの学生ボランティアチームである「ドリカムキッズ」のメンバーを中心に募集活動を行いました。1日のみで実施する「見学研修」と、3日以上継続的に参加してもらう「インターン研修」の2種類の研修を、夏休み等の長期休暇に合わせて実施しました。

○成果として

<参加学生の変化>

本助成期間では、計 15 名の学生に、のべ 232.5 時間の研修を行うことができました。前年度と引き続き参加学生には「重い障害をもつ子どもたちと関わることへの印象がポジティブで楽しいものになる (参加学生全般)」「子どもたちとの関わりに必要な要素への理解 (インターン研修参加学生)」といった変化・成長が見られました。

<学生が育つことによる将来的成果>

学生たちのような若い世代に、本プロジェクトを通して障害や難病を抱えた子どもたちへの理解

を深めてもらうことは、これから社会で活躍していく彼らだからこそ、現在の経験が、今後社会に出てからの長い間、社会に良い影響を与える（＝NPO 法人 NEXTEP にとっての成果）こととなります。

<スタッフの成長>

学生の受け入れは、スタッフにとって指導や助言を行う機会となります。スタッフは、現場に入る学生たちに向けてわかりやすく伝えるために、ひとつひとつの行為や、注意すべき点について、その背景・理由を掘り下げて理解しておく必要があります、このプロセスが指導する側であるスタッフ一人ひとりを成長させる機会になっています。

他方、参加学生側は、NEXTEP 内の「学生ボランティアチーム ドリカムキッズ」という組織を構成しています。このドリカムキッズとして、2018 年 1 月にはお正月遊びをこどもたちとご家族が体験できるイベントを自主企画・実施するなど、活動が前年度に比べて活性化してきました。研修を通して、メンバー全体のレベルが上がっています。

<子どもたちにとって>

子どもたちと参加学生が個々のつながりをつくり、身近な存在となっていくことは、重い障害や難病の子どもたちへの思い入れを持って接することができる人が一人、また一人と増えることです。そして、そんな学生たちが今後卒業し、社会に出ていくことは、子どもたちにとって将来の地域の受け皿となりうる人が増えることとなります。

（残された課題、新たな課題）

最も重要なことは長く継続することだと考えます。この2年間の実践を元に、継続すること自体は十分可能なことだと考えますが、学生の取り組みという性質上、数年おきに必ず代替わりが起こることが前提となります。その上で組織として長く続けるためには常に情熱を持って関わり、新しい学生との出会いや成長を楽しむことが必要です。この感覚を組織全体の文化に消化していきたいと考えています。

また、今回参加した学生はみんないずれ卒業し、OB、OG としてのネットワークが形成されていきます。長期的に OB、OG との交流の機会を持ち、このネットワークが出来るだけ生きやすい環境づくりを行っていくことが必要です。

（活動の背景・社会的課題）（団体からのメッセージ）

長期に医療的ケアの必要な子どもたちの育児には、医師や看護師、福祉職といった、専門職による支えだけでなく、必ず地域住民や行政、企業等の協力と支えが必要です。

このような子どもたちの存在をみんなが知っていて、気に掛け、たくさんの人の関わりの中でその子を中心として環境を改善していく。そんな形で、サポートが必要な立場にある人を大切にしていく過程は、自然と関わる人の心を温かくしていく事にも繋がります。そしてそれは、地域に暮らすみんなにとって暮らしやすい社会を作っていくことと、イコールではないかと思えます。

笑顔溢れる地域社会づくりに貢献できるよう、これからも継続的に取り組みを続けていきたいと考えています。

以上